

平成29年10月31日

ひと・まち活性化部会

～人口減少対策：子どもを産みたい，育
てたいと思える環境づくり～



このパワーポイントでは、

- 昨年の議論とまとめ
- 今年度の議論
- 今日のワークショップの流れ

をご説明したいと思います



まず、昨年の地域コミュニティ部会では・・・

人口減少問題を空き家対策の側面から議論しました。



ひと・まち活性化部会の取組

第1回(8月30日)

○京都市における空き家対策について、各学区の空き家の現状を共有しました。

第2回(11月14日)

○京都市地域連携型空き家流通促進事業コーディネーターによる空き家対策の講演、今後の取り組むべき方向性について議論しました。

昨年の議論のまとめ

1. 地域の取組

- 空き家が地域全体の共通課題であることを認識し、日頃から空き家の適切な把握に努める。
- 学区の更なる魅力を高めていく取組を進める。

など

2. 北区役所の取組

- 空き家所有者が気軽に安心して相談できるよう、北区役所における定期的な空き家相談会の開催を検討する。
- 通報を受けた管理不全空き家について迅速に現況確認し、市役所と連携し早期解決を図る。

など

今年は、

“子どもを産みたい、子どもを育てたいと
思える環境づくり”

をテーマに議論を進めていきます。

■2回のワークショップの内容

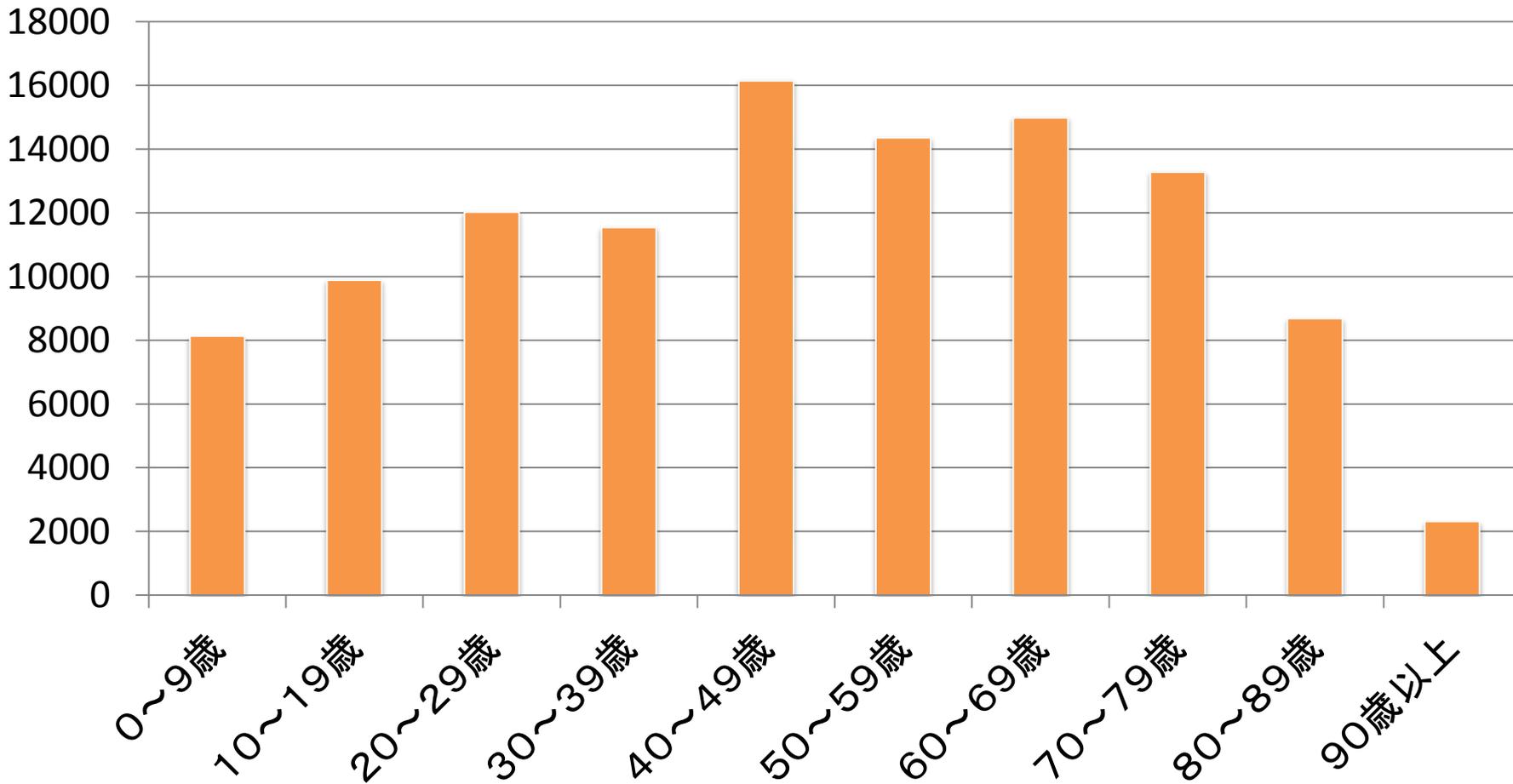
本日・・・○子どもや子育て世代と接する中で感じる課題は？

1月・・・○地域で子どもを育てていくためにできることは？

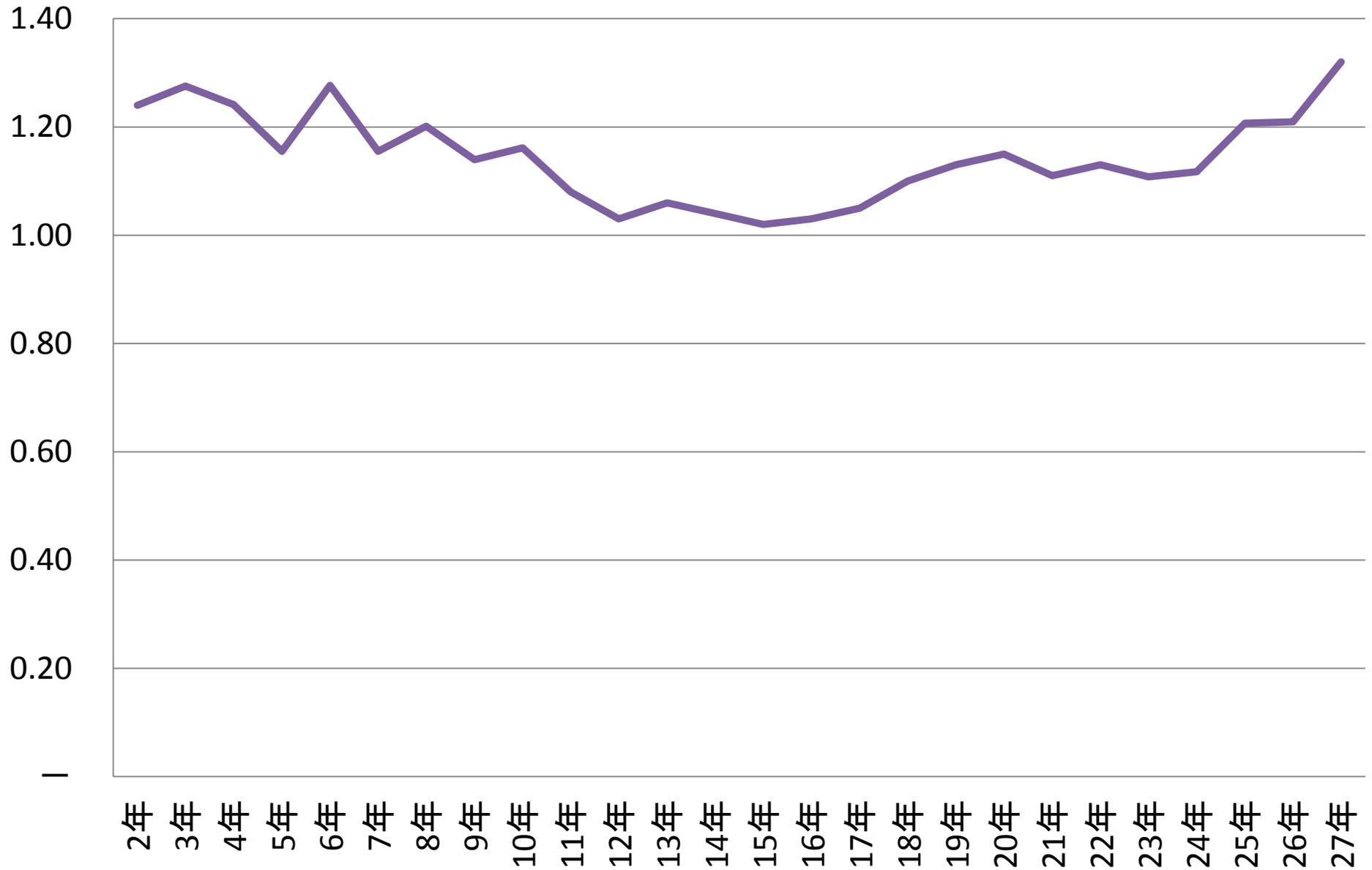
北区の現状

北区の年齢別人口

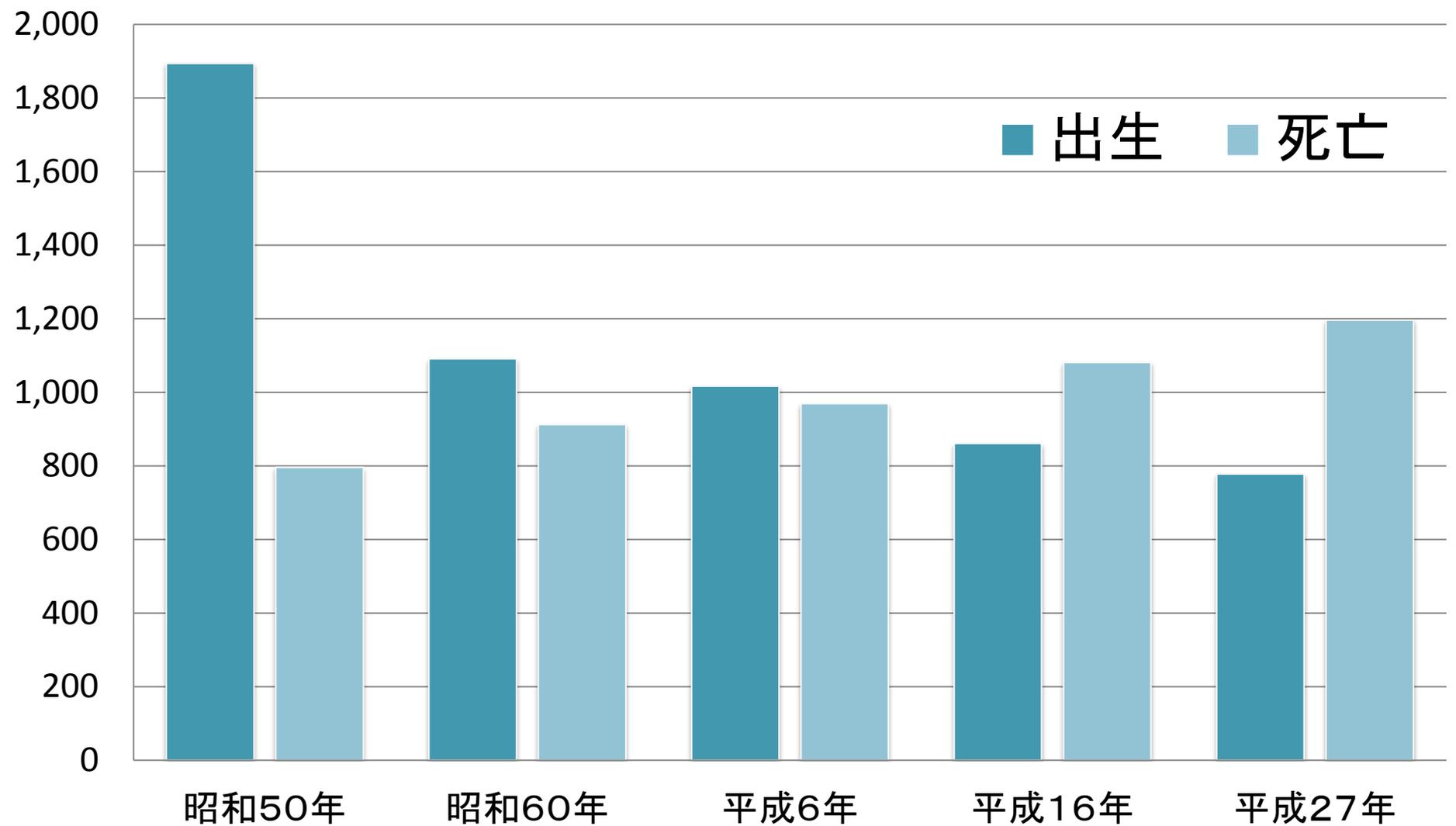
平成29年10月現在



北区の合計特殊出生率の推移



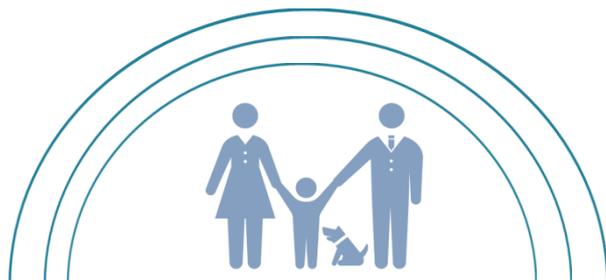
昭和50年以降の北区の出生・死亡の推移

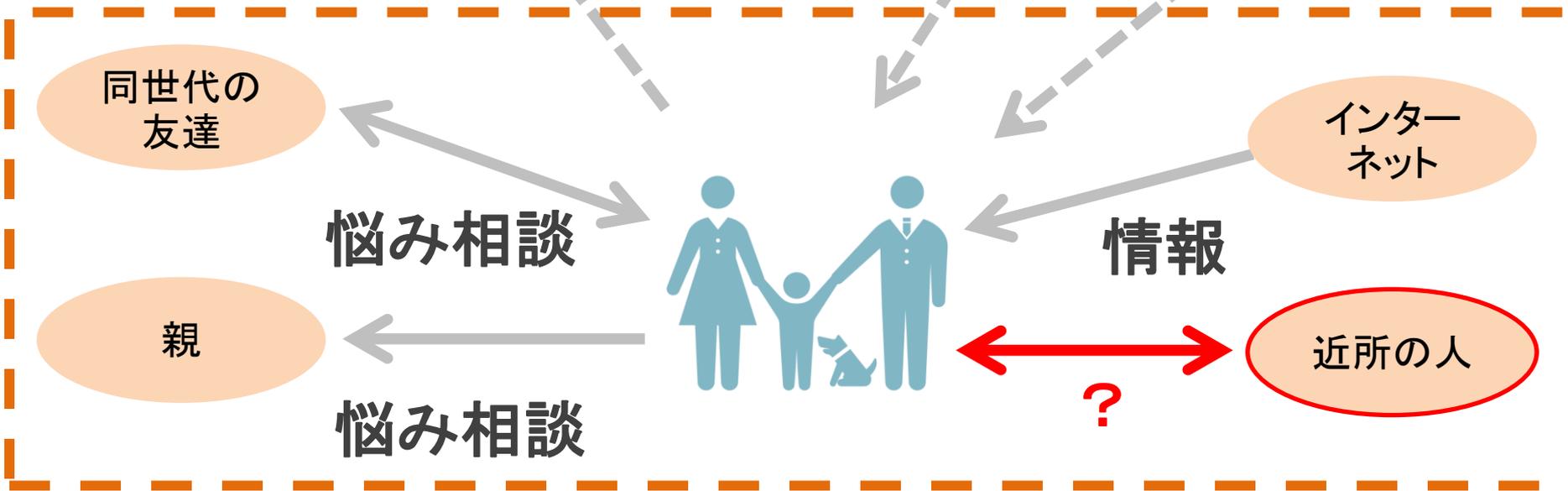
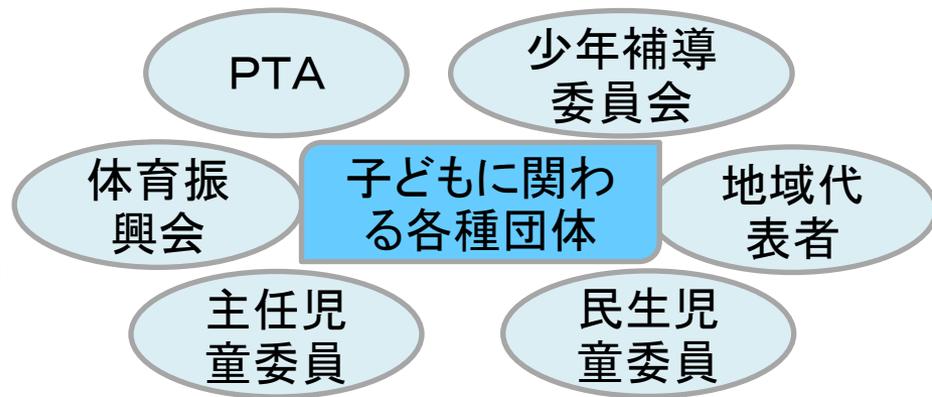


子育てを取り巻く環境の変化

- * インターネットで情報が得やすくなったことで、
経験者に直接聞かなくても悩みが解決できる
- * 核家族(夫婦と未婚の子ども)を選択する人が
大勢いる

⇒身近な大人と親子が関わる機会が少なくなっているように思います。





出生率が低下している要因の例

- 働く女性が増えて、晩婚化している。
- 考え方が多様化しており、結婚しない人や子どもを産まない人も従来より増えている。
- 子育てに係る経済な不安がある。
- ✓ 子育てに係る漠然とした不安がある。

子どもを産み育てたい
という環境を作る

||

人口減少対策

子どもを産み育てたいと思う環境を作る

目指したい未来の像

- * 子どもが居る, 居ないに関わらず, どんな人も, 子どもを温かく見守れる, 北区。
- * 子どもが居る人も居ない人も, 生きやすい社会。
- * 赤ちゃんの泣き声を「うるさい!」と感じないようなご近所との顔が見える関係性。



本日の会議に参加されている方々

まちづくり会議委員

地域代表者

民生児童委員

主任児童委員

体育振興会

PTA

幼稚園・保育園・児童館

子ども関係NPO

教育関係の大学生

本日は、皆さんが、子どもや子育て世代の方と接しておられる中で感じておられる子育てに係る課題やご意見を聞かせてください。



“誰もが子どもの健やかな成長を見守れる”

“子どもで溢れている”そんなまちにするた

めに、私たちにできることは何でしょうか？

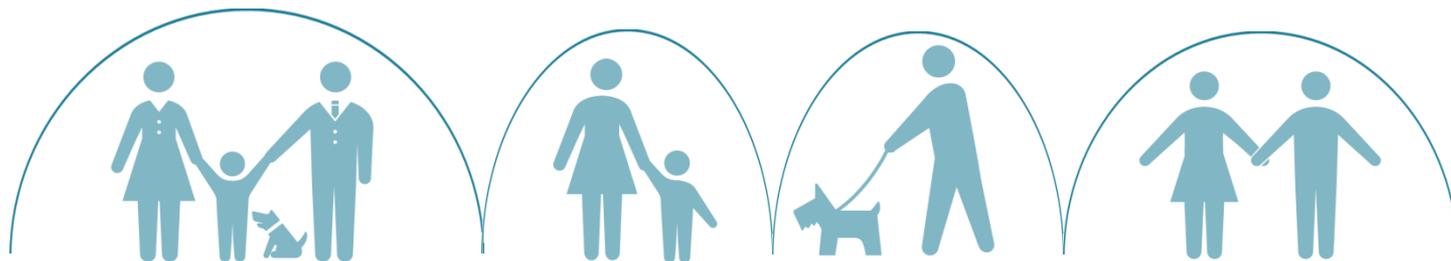


では。始めてみようと思います。

1 思いを共有

40分

子どもや子育て世代の方と接しておられる中で感じる子育てに対しての課題や意見を自由に出し合ってみましょう。

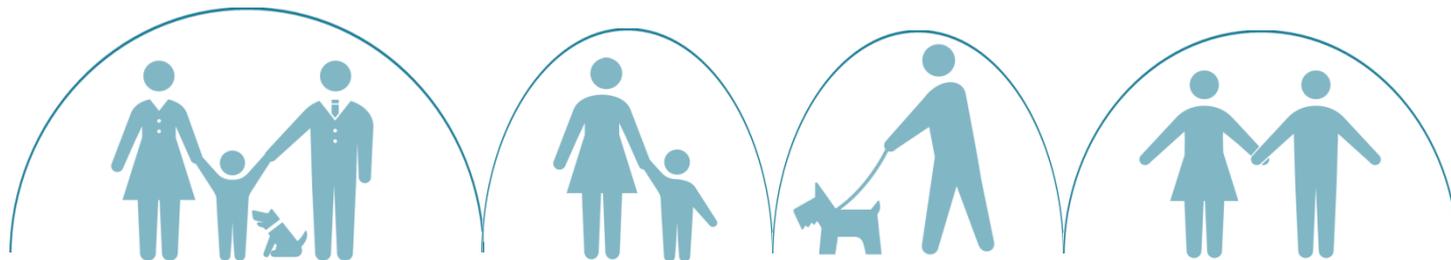


1 思いを共有

それでは・・・

12分

テーブルで出た意見を，紹介してください。



2 取組検討

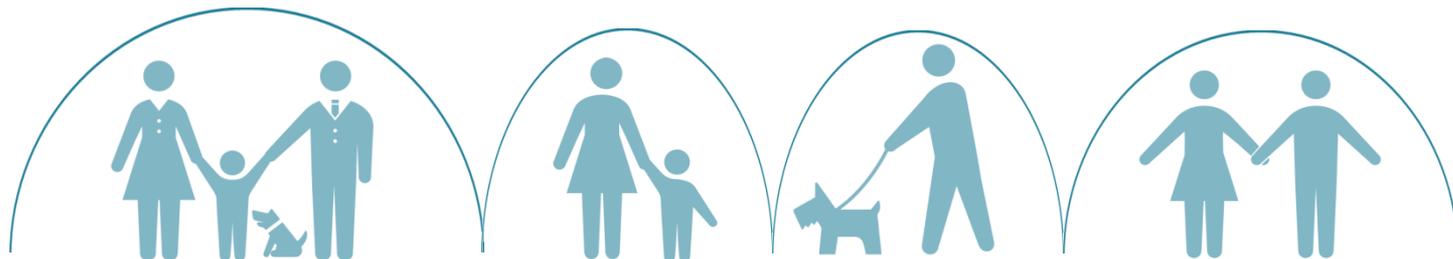
15分

“誰もが子どもの健やかな成長を見守れる”

“地域で子育てを応援していく”

“ご近所との顔が見える関係性”

を目指して、私たちにできることをテーブル内で共有してみましよう。

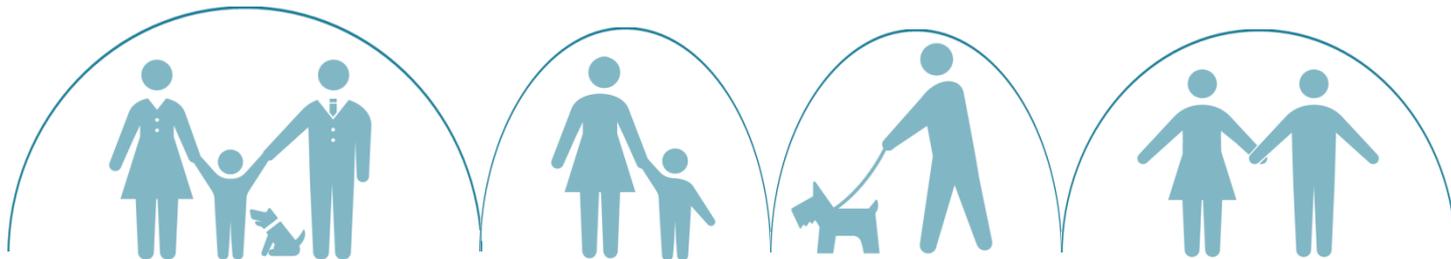


2 取組検討

最後に・・・

10分

テーブルで出た意見を，紹介してください。





第2回目ワークショップは、1月18日に開催する予定です。

次回は、本日の2つ目のテーマ，“誰もが子どもの健やかな成長を見守れる” “子どもで溢れている” 北区を目指し、私たちにできることについて、より深めた話し合いをしたいと思います。

本日はありがとうございました。

